

新性能化のうねりは、山里にこだまする。

KATO
PRECISION RAILROAD MODELS

飯田線 新性能化の立役者



6月発売

119系 飯田線 2両セット(M付) クモユニ147 3両セット(M付)

クハ118-21	クモハ119-29(M)	クモユニ147-2
クハ118-24	クモハ119-33(M)	クモハ119-32
		クモユニ147-2

119系、クモユニ147の編成例
※クモユニ147を連結しない2両、3両、5両編成もあります。



カーブ鉄橋セットR448-60° (緑)

119系は1980年代に入るまで、旧形国電が活躍していた飯田線の新性能化を目的に、普通列車の置換え用車両として、昭和57年(1982)から投入された、飯田線専用の近郊形電車です。駅間が短く、勾配区間が多い長距離路線という飯田線の特徴に合わせて設計された119系は、2両から5両編成で、区間や時間帯による輸送需要の変化に合わせた、フレキシブルな組成で運転されました。また、これに続いて投入されたクモユニ147が併結され、郵便荷物輸送に活躍しました。

KATOでは119系を実車同様に2両編成と3両編成の2種類のセットを、共に動力付きで製品化。併せてクモユニ147(モーター無)でご用意します。ご好評を頂いております「飯田線シリーズ」の旧形国電時代終了後のシーンの再現として、好評発売中の「単線デッキガーダー曲線線路」との相性もピッタリ。今も変わらぬ飯田線のシーンで、運転をお楽しみください。